

今回の瓦版では、平成27年1月20日（火）に開催した「平成26年度地域づくり交流会」の結果をお知らせします。


県内の地域づくりの参考となる内容ですので、各地でご活用いただければ幸いです。

平成26年度地域づくり交流会 結果報告

1 プログラム

入場無料

平成26年度地域づくり交流会



県内各地域で地域づくりに取り組む住民組織や市町村・県の職員等が課題を話し合い、取り組みのアイデア等を考え、今後の地域づくりに活かすために、参加相互の意見交換、交流を行います。

日時：平成27年1月20日（火）10:30～16:00（開場10:00）
場所：郡山市役所本庁舎2階正庁（郡山市朝日一丁目23-7）
車でお越しの方は、郡山市役所本庁駐車場か開成山公園駐車場をご利用下さい。

参加対象者

- まちづくり団体
- 商工団体
- 行政（県、市町村）
- まちづくりに興味ある方 等

どなたでも参加できます。
第1部のみの参加でもOKです
ですのでお気軽にご参加下さい。

講師プロフィール
吉村 徳男（よしむらのりお）
昭和28年下郷町大内生まれ、「大内宿結いの会」顧問。
大内宿が昭和58年に重要伝統的建造物保存地区に選定されたことを受けて、同年設立された「大内宿保存会」に20年以上関わり、住民憲章の策定や葺き替えの環境整備等に取り組む。茅葺き屋根職人の高齢化を憂え、自ら技術を習得して、その継承を図ったほか、「大内宿結いの会」を創設し現在は顧問。地区の後継者育成にも取り組む。
現在は地区の後継者育成はもとより、大内宿での実績をもとに隣接町村や、地域づくりに悩む人々への教示など、幅広い活動を行っている。
平成26年度新“うつくしま、ふくしま。”県民運動知事感謝状個人の部受賞。

問い合わせ、申し込み先は裏面をご覧ください。

主催：平成26年度地域づくり交流会運営委員会
（福島県、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター、
（公財）福島県区画整理協会、福島県都市計画協会）

交流会（第2部の概要）

下記①～④の分野毎に、県内各地域で地域づくりに取り組む中での悩みや課題を出し合い、アドバイザーを交えて今後の取り組みに参考になるような話し合いをします。



全体会コーディネーター：佐藤彰彦氏（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授）

① 活動継続の在り方

keyword：活動資金、活動への思い

② 地域の担い手をどう育成するか

keyword：リーダーの育成、後継者不足、高齢化

③ 子ども・若者の参画

keyword：地域の誇り・愛着心の醸成

④ 効果的な情報発信の在り方

keyword：地域の人への理解、交流の拡大

2 開会あいさつ（福島県 梅津土木部参事）

- 平成16年度の「元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業」の創設等を契機に地域づくりに取り組んできた。
- 東日本大震災の影響で、地域づくり活動が一時休止した例があるが、本交流会の再開や各種事業の活用を図りながら、福島の元気を取り戻す試みを行ってきた。
- 各団体の交流を通して、継続した活動、そして進化した活動を行い地域が元気になっていくことが震災からの復興に一番重要である。県も関係機関と連携し支援していく。



3 基調講演

（大内宿結いの会顧問 吉村徳男氏 「大内宿の地域づくりで大事にしているもの」）

- 江戸時代の参勤交代が終わると大内宿は寂しい村になってしまったが、昭和40年代に武蔵野美術大学が調査に入ることがきっかけとなり昭和56年に重要伝統物的建造物群保存地区に指定された。
- 地域のコミュニティをしっかりとすることが大切であり、年中行事（文化）を復活させた。若水汲み、しめ縄づくり、団子さし、歳の神、お祭り、お盆の迎え火・送り火等。めんどくさいことをやるのが人と人を繋ぐ。
- 地域をきちんと整えることがもてなしである。階段の雪かき、水路の掃除、農村景観づくり等。これらが観光客を感動させているようだ。
- 自分たちが楽しむことが大事である。雪祭りの灯籠づくり、酒飲み等。このような取り組みを行うことで若者が残っている。
- “子孫の為”。地域に残る古文書に「子孫の為に寄付する」との記載があった。昔の人は子孫の為になることをやっていたので、自分たちも子孫の為にやっている。子孫の為は自分のためでもある。



4 「元気な地域を育む本」の紹介（県まちづくり推進課 小水主査）

平成26年7月に作成した「元気な地域を育む本」を紹介しました。本の内容は下記URLをご覧ください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41055b/gaido.html>



5 交流会（グループ討論、全体会）

午後の交流会は、「活動継続の在り方」「地域の担い手をどう育成するか」「子ども・若者の参画」「効果的な情報発信の在り方」の4テーマ6グループに分け、ワークショップ形式で討論し、発表しました。

各グループから出されたアイデア等は下記のとおりです。

アイデア等

- ・ 学校と地域の日頃からの連携が大事。校長室にお茶のみに行こう！
- ・ 子どもの頃から地域のことを学んでもらうと良い。そうすれば親世代も興味を持つ。
- ・ 多くの補助金があるので活用すべき。申請時には「地域のためにどのように役立つのか」を書くと採択可能性がアップすると思う。
- ・ 情報発信には、外向けと地元向け（参加者を巻き込む）の2種類がある。SNSなどのネット媒体も有効だが、自分たちが自信をもって楽しく活動し、直接人と人で話すことが大事。そうすれば口コミで広がるし、マスコミも取材に来る。
- ・ ネット媒体の情報発信を若い人に担ってもらえれば、若い人も地域づくりに参画できるのではないか。

まとめ（福島大学 佐藤特任准教授）

- ・ 自らが楽しむことが出発点。
- ・ いろいろな世代が交わることが大事。
- ・ 地域の世話焼きさんを発見することが有効。



ワークショップの様子



ワークショップの様子



発表の様子



佐藤特任准教授

6 話題提供 「災害公営住宅における街区デザインについて」 (公益財団法人福島県区画整理協会 鈴木企画課長)

- ・ 福島県区画整理協会が取り組む、復興公営住宅の街区デザイン及び新地町の復興まちづくりについて紹介がありました。



7 閉会あいさつ (福島県まちづくり推進課 木村課長)

- ・ 皆様方の活動が、ネットワークになって繋がっていくことを期待している。
- ・ この交流会は来年度以降も開催を予定しており、皆様の熱い気持ちを支援していく。

<その他交流会の写真>



■編集後記■

地域づくり交流会は、震災時を除き毎年開催しておりますが、今回は各地の悩みが少しでも解消にされるような企画を練りました。次年度以降も有意義な交流会となるような内容にしたいと考えております。

地域づくりを進める上での質問等がありましたら、まちづくり推進課へ遠慮無く連絡下さるようお願いいたします。

土木部メールマガジン登録随時受付中!!!

福島県土木部では、土木部メールマガジンとして、定期的に土木部の取り組みや情報を発信しております。まちづくり瓦版、地域のイベント情報も合わせて発信しております。

土木部メールマガジン(無料)の登録をご希望される方



- 1 土木部メルマガ希望または解除
- 2 お住まいの市町村

1, 2を記入の上、
doboku_mailmagazine@pref.fukushima.lg.jp
まで希望する旨ご連絡下さい。

【発行元】 福島県土木部まちづくり推進課
〒960-8670 (住所記載不要です)
TEL 024-521-7511
FAX 024-521-7956
e-mail machizukuri@pref.fukushima.lg.jp
URL <http://www.pref.fukushima.jp/sec/41055b/>